

気候情報

2015年7月の日本の天候

- 気温は北・東日本で高く、西日本で低かった
- 東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で降水量がかなり多かった
- 西日本と沖縄・奄美では日照時間が少なかった
- 北日本太平洋側では、日照時間がかなり多かった

7月の天気概況

上旬は、梅雨前線が本州南岸に停滞することが多く、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多かった。中旬以降は、日本の南東海上で太平洋高気圧の勢力が強まり、北・東日本を中心に高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。一方、西日本と沖縄・奄美では、湿った気流が流れ込みやすく、晴れの日が少なかった。

気温は、北・東日本では、中旬以降は高気圧に覆われて高くなり、下旬はかなり高かった。一方、西日本では、上旬は梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かったため、かなり低く、中旬以降は平年並で、7月の月平均気温としては2007年以来8年ぶりに低かった。

上旬：梅雨前線が本州南岸に停滞することが多く、東・西日本太平洋側では、曇りや雨の日が多く、低温となった。特に、西日本太平洋側では旬間日照時間が34%となり、7月上旬としては2005年と並んで最も少ない記録となった。北日本では冷たい移動性高気圧に覆われることが多く、気温は低かった。沖縄・奄美では、南からの暖かく湿った空気や台風第9号の影響で、降水量はかなり多く、気温はかなり高かった。

旬平均気温は、沖縄・奄美ではかなり高かった。一方、西日本ではかなり低く、北・東日本では低かった。

旬降水量は、東日本太平洋側と沖縄・奄美ではかなり多く、西日本太平洋側では多かった。一方、北日本太平洋側ではかなり少なかった。

旬間日照時間は、東・西日本太平洋側ではかなり少なく、西日本日本海側と沖縄・奄美では少なかった。一方、北日本では多かった。

中旬：日本の南東海上で太平洋高気圧の勢力が強まり、北・東日本では高気圧に覆われて、晴れた日が多かったため、気温が高くなった。また、台風第9号の影響で、沖縄・奄美では暴風雨となったほか、九州南部を中心に降水量が多くなった。また、台風第11号の影響で東・西日本では太平洋側を中心に大雨となった。なお、奄美地方は15日ごろ、九州南部は17日ごろ、関東甲信地方は19日ごろ、東海、近畿、中国地方は20日ごろ梅雨明けした（速報値）。

旬平均気温は、北日本でかなり高く、東日本で高かった。一方、沖縄・奄美ではかなり低かった。

旬降水量は、沖縄・奄美でかなり多く、東・西日本太平洋側で多かった。一方、北日本太平洋側と東日本日本海側では少なかった。

旬間日照時間は、北日本と東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美ではかなり少なかった。

下旬：北日本では前線や気圧の谷の影響で曇りや雨となった日が多く、25日には秋田県で大雨となった。西日本や沖縄・奄美では、南からの湿った気流や台風第12号の影響で曇りや雨となり、九州を中心に大雨となった所があり、奄美地方や沖縄本島地方を中心に暴風雨となった。気温は、北・東日本でかなり高く、北日本から西日本の広い範囲で猛暑日となった所があった。なお、北陸地方は21日ごろ、四国地方は24日ごろ、東北南部は26日ごろ、九州北部地方と東北北部は29日ごろ梅雨明けした（速報値）。

旬平均気温は、北・東日本ではかなり高かった。

降水量は、北・東日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側で少なかった。

日照時間は、北・西日本日本海側で少なかった。一方、東日本太平洋側では多かった。

7月の気候統計

月平均気温：北・東日本で高く、西日本で低かった。

月降水量：東・西日本太平洋側と沖縄・奄美ではかなり多く、北日本日本海側で多かった。一方、北日本太平洋側で少なかった。

月間日照時間：西日本と沖縄・奄美で少なかった。一方、北日本太平洋側でかなり多かった。

(気象庁観測部情報管理室)

7月の記録（1位更新のみ）

- ・記録更新なし

2015年7月の平年差（比）図

